

この記事がすごい！ 毎日新聞今週のこだわり4本



2025年4月20日号

編集／毎日新聞社カスタマーリレーション本部

重度障害者の尊厳を守る 木村浩子さんの戦い 20日(日)=1、3面

迫る



沖縄本島の北西に浮かぶ伊江島。80年前の沖縄戦で数多くの兵士、住民が亡くなった場所です。そこに「土の宿」という民宿があります。1984年に開設され、どんな人でも受け入れる民宿です。「おかみ」は木村浩子さん(87)＝写真。脳性まひで重度障害を抱えています。歌人であり画家であり、そして戦後、重度障害者の尊厳を守る活動や平和運動を続けてきました。

「土の宿」を建てたのもその運動の一環です。そんな活動の原点には、木村さんのこんな体験があります。13歳で母を亡くし、母が残した日記を目に

します。戦時中、兵士が母の前で青酸カリを持ち、「足手まといになる。いざとなったら親の手で殺せ」と言ったという記述がありました。自らの存在価値を見失い、自殺を図ることもありましたが、あることがきっかけで自らの「生」と向き合い、人生を歩み始めます。しかし社会は重度障害者を簡単に受け入れることはありませんでした。

木村さんの歩んできた道のりを彼女のエピソードを交えながら振り返り、現代社会は、我々は障害者と真正面から向き合っているのかを問いかけます。



囲碁AIの進化 20日(日)=総合面

囲碁AI(人工知能)の進化が止まりません。囲碁は碁盤が広く、局面の組み合わせが膨大で複雑です。そのため、AIが人間に勝つには時間がかかると言われてきました。しかし9年前、囲碁AI「アルファ碁」が世

界トップクラスの棋士を破る快挙を成し遂げ、さまざまなAIが開発されています。なぜ、囲碁AIは強くなったのでしょうか。進化の歴史を振り返り、囲碁界とAIの今後に迫りました。



世界トップレベルの李世乭九段(韓国)＝右＝との五番勝負で4勝1敗と圧勝したアルファ碁(日本棋院提供)

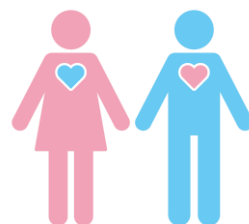
特集ワイド

追悼 徳岡孝夫さん 21日(月)=夕刊2面



元毎日新聞記者でジャーナリスト・評論家の徳岡孝夫さん＝写真＝が95歳で亡くなりました。作家の三島由紀夫と親交を結び、1970年11月に三島が東京・市ヶ谷で割腹自殺する直前に檄文(げきぶん)を託されたことで知られます。話

題の人物を取り上げる月刊誌の巻頭コラムでも活躍しました。徳岡さんの「後輩」に当たる鈴木琢磨・客員編集委員がインタビューした当時を振り返り、気鋭の言論人を偲(しの)びます。



出生時の性と自認する性が異なるトランスジェンダーの選手が参加を排除する動きが強まっています。2月に米国のトランプ大統領は女子競技への参加を

禁止の大統領令に署名しました。3年後にはロサンゼルスで夏季五輪が開かれませんが、国内外のスポーツ界にどんな影響を及ぼすのでしょうか。いずれもジェンダー

23日(水) オピニオン面

論点 スポーツとトランスジェンダー

竹橋の窓辺から

編集後記



7冠を持つ藤井聡太名人に永瀬拓矢九段が挑戦する将棋・第83期名人戦七番勝負が始まりました。ホテル椿山荘東京で行われた第1局は134手で藤井名人が先勝、3連覇に向けて好発進をしました。対する永瀬九段も次局以降に、どう巻き返していくのかも注目です。第2局は4月29、30日の両日、羽田空港第1ターミナルで開催されます。名人戦を主催する毎日新聞社では、紙面でもニュースサイトでも詳しくお伝えしていきます。

(丸山長彦)

毎日新聞